

溪谷沿いの散策



養補給を終えると、たちまち元気が回復し、少々お疲れ気味の大人を横目に、午後の活動でもパワー全開でフィールドを駆け回っていました。

午後からは三班に分かれ、木工教室、ネイチャーゲーム、ツリーインング(フオレストキャニオン担当)を体験しました。木工教室では好評の「クマのストラップ」

六月三日、四万十市立わらびおか蕨岡小学校の三、四年生九名及び、六月五日、宿毛市立こぶくし小筑紫小学校の五年生一二名を対象に校庭の樹木を学習し、樹名板を取り付けたいとの要請を受けて指



導にあたりました。

今回の学習は、身近にある校庭の樹木に興味を持ち、その自然のすばらしや大切さを守り育てる意識を育成する目的で実施しました。

最初に樹木の話を行い、針葉樹と広葉樹の違い、単葉と複葉の違い等について説明しました。



蕨岡小学校・校庭の樹木学習

次に、校庭の樹木学習では、樹木名と特徴、用途等について説明しました。両

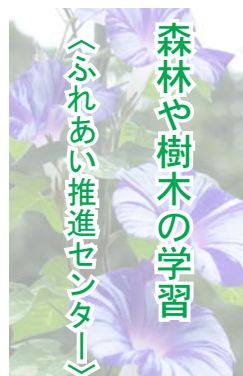
校とも「イチヨウの仲間には、中生代のジュラ紀に繁栄したが、ほとんどが、中生代の終わり頃恐竜とともに絶滅し、イチヨウ一種のみが生き残ったといわれている。」と説明すると、皆一様に驚きの声を上げていました。

その後、ヒノキの輪切りに、ポスターカラーで和名と科名を書き、余白には、思い思いのイラストを描いて樹名板を完成させました。そして、一人ずつ、自分が担当した樹木に取り付けていきました。なお、小筑紫小学校については、次回森林教室の時に取り付ける予定です。

今回の学習を通して、樹木について、少しでも興味を持つてもらえる入り口に



小筑紫小学校・校庭の樹木学習



愛媛県松野町立松野西小学校の四年生は、毎年度「総合的な学習の時間」を利用して森林や樹木の学習をしています。

今年度も二五名の生徒を対象に六月四日と二〇日に「校庭の樹木」「空飛ぶ種子」

校庭の樹木学習



を行いました。
 「校庭の樹木」では、まず、教室で広葉樹と針葉樹の違いや単葉と複葉の特徴、葉のつき方など基礎知識を学び、その後、校庭に出て、学校に植えられている約四〇種類の樹木について、葉や花を見たり葉に触れたりして、それぞれの樹木の名前や特徴を学習しました。

後日、自分たちで作った

樹木名板を取り付けました。

また、「空飛ぶ種子」では、樹木や草花が様々な方法で種子を散布することを学習し、実際にマツやカエデの種子が風を受けてくる回る回って飛ぶ様子を観察しました。

その後、「アルソミトラ」や「マツ」、「ニワウルシ」「ラワン」の種子の模型を色紙やストレッチシートを使って作りました。体育館ではストレッチシートで作ったラワンの種子模型を輪ゴムで飛ばし、くるくると回りながら落ちてくる様子に「おもしろい」などと歓声を上げ、何度も飛ばしていました。

今後、七月に「木工クラフト」二学期には、「八面山登山」「森林の土壌と生物」「炭」について学習す

る予定です。

さまざまな学習を通して森林や自然、林業などについての興味や理解が深まることを期待しています。



完成した樹木名板



六月一日、徳島県小松島市の横須保育所で五歳児二二名を対象とした

森林教室「木工クラフト」

を行いました。子供たちが作成したのは、①間伐材を使用した写真立てと②カシやサクラ材、ドングリを使用したクマやカブトムシなどの動物マスコットの飾りです。



動物のマスコット完成しました みんな力作です

子供たちは今回の森林教室を楽しみにしてくれていたようで、私たちが道具や材料を準備している時から、見本用のマスコットやドングリなどの材料に興味

津々の様子でした。そして、

いざ開始となると一斉にマスコットの材料を入れた箱に群がり、思い思いにマスコットの材料を手にとっていました。子供たちは一個目のマスコットを作るのは苦労していましたが、その後は要領をつかんだよう、追加のマスコットを作ったり、枝を組み合わせて恐竜を作ったりと、それぞれが工夫しながら楽しんでクラフトに取り組んでいました。

できあがった作品は、マスコットがぎっしり飾られているかのような向きで置かれたりと、それぞれの個性が反映されて独創的なものや発想豊かなものなど、見事な出来映えでした。



写真立て作成にみんな夢中です

子供たちは皆、自分の作品に大満足の様子で、「明日もきてね」とか「次はネコが作りたい」など、とても喜んでもらえたようでした。

近頃は木に触れる機会はとでも少なくなりましたが、木を身近に感じ、生活の中に取り入れてもらえるよう、木に直に触れ、ぬくもりを感じられる木工クラフトがそのきっかけになればと考えており、今後も引

き続いてこのような森林教室を実施する予定です。



六月二十九日、三〇日、

四万十川にかかる通称「赤鉄橋」河川敷において、高知・西南地域観光キャンペーン「楽しまんとはた博」のプレイメントが開催され、四万十森林管理署が参加しました。三〇日の「RKC子育て応援団すこやか2013 in はた」の事務局から、「日頃自然にふれることの少ない子供たちに、幡多地域に広がる国有林を管轄している四万十森林管理署による、森林の働

きや自然の大切さ、木の温かみ等を体感させるワークショップを企画してもらいたい」という協力要請があり、当署からは五名が参加し親子木工教室を開催しました。

当日は梅雨の真っ盛りであいにくの雨天となりましたが、会場には幡多地域の物産をそろえた約二〇の出店が並び、チャイルドボデイセラピストの蛸原英里さんの親子のふれあいトークライブや、アンパンマンショー、ご当地アイドルグループのライブなど多彩な催しが行なわれ、約三〇〇人の人が四万十川河川敷に繰り出し、たくさん親子連れでにぎわいました。

木工教室の開催にあたり、ブースメント内に国有

林の役割や森林の働き、木の生態など森林環境に係わるパネルを展示し、「木のメダルをつくらう」をテーマに、キーホルダーやストラップなどを制作しました。

幼児から小学生までの子どもたちがひっきりなしに集まり、あらかじめ輪切りにしていたヒメシヤラやエングジュなどを材料に、子ども達の自由なアイデアによつて、メダルやキーホルダーやネックレスを個性豊かにデコレーションしながら夢中になって制作し、創造性豊かな木工作品がたくさん出来上がりました。子どもたちは趣向を凝らした作品を制作するなかで、木に触れることにより、物持つ暖かさや柔らかさ、物

づくりの楽しさやおもしろさ、香りや手ざわりなどを感ずることができたようです。

今回参加してくれた子ども達も、自然に対してやわらかな感性を持ちながらすこやかに成長し、大きくなつたときに、少しでも森林や林業に目を向けてくれる良き理解者であり協力者となってくれることを心待ちにしています。



手作りの木のメダルにご満悦